

ハイライトよねやま81

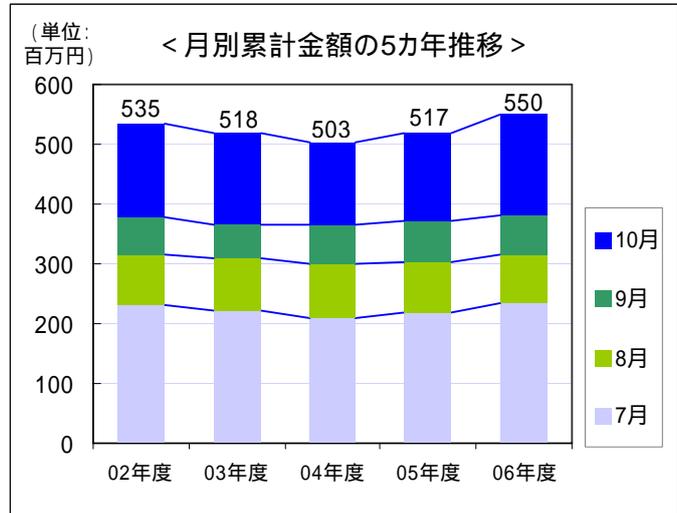
(財)ロータリー米山記念奨学会
2006年11月10日発行

1. 寄付金速報 過去5年間で最高の寄付累計額！

10月までの寄付金は、前年同期と比べて6.3%増、約3千3百万円の増加となりました。普通寄付金が0.8%増、特別寄付金が10.5%増と、昨年度から16カ月連続で前年同期を上回る好調な結果となりました。

特別寄付金として数名から100万円のご寄付があり、16クラブから100万円以上のご寄付をいただいたことが、今回の結果につながったと考えられます。特に、第2650地区【福井・滋賀・京都・奈良】は、前年同期に比べて22%増(約700万円増額)と、多大なご協力をいただきました。

今月の寄付累計額5億5千万円は、2002年度以降5カ年の中で最高額です。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2. 2007年4月採用の米山奨学金申込状況

2007学年度の米山奨学金(学部・修士・博士課程奨学金、地区奨励奨学金)には、全国334校から1,432人の応募がありました。

申込者を国・地域別にみると、中国が60.4%(前年度比+2.1%)、韓国13.8%(+1.0%)、台湾6.7%(0.2%)、その他19.1%(2.9%)、課程別では、博士課程が31.6%(1.5%)、修士課程56.6%(+0.3%)、学部課程11.0%(+1.1%)となりました。「地区奨励奨学金」は5校11人から応募がありました。毎年、推薦者0人の指定校が発生しますが、今年は68校と前年度の93校から大幅に減少しました。事前の情報収集など、更なる留学生在籍状況の確認をお願いいたします。

これから11月中旬～1月下旬にかけて、地区選考委員会による書類選考・面接試験が実施され、2月中旬には新規採用者582人(2006年11月現在)が決定されます。

なお、「クラブ支援奨学金」には12地区23クラブから応募がありました。

3. GETS・配偶者プログラムで米山奨学生と学友がスピーチ



ギリラムさん

2006年9月17日～18日にかけて行われたGETS(ガバナーエレクト研修セミナー)の配偶者プログラムで、初めて米山奨学事業を紹介する時間が設けられました。

成川守彦RI研修リーダーの司会により、まずは米山奨学会の概要を説明した後、ネパール出身の米山学友、ギリラムさん(1998-2000/室蘭RC)と、イラン出身の現役奨学生、ブウル・ブウルパリサさん(2006-07/志木RC)がスピーチを行いました。

二人の日本における留学経験や、米山奨学会に対する感謝の言葉に対して会場から質問もいただき、ガバナーエレクトの配偶者の皆様へ米山奨学事業を理解していただく有意義な時間となりました。(事務局長 坂下博康)



ブウル・ブウルパリサさん

4. 好企画！プロの落語家による米山奨学事業の卓話【第 2750 地区】

寄席や講演で活躍中の落語家・三遊亭若圓歌^{さんゆうていわえん か}さんが11月6日(月)米山梅吉氏の半生と米山奨学事業のあらましを題材にした卓話を東京五反田RCの例会で初披露しました。

このオリジナル卓話『米山さんのすて目すて耳』の創作のため、若圓歌さんは、米山梅吉記念館(静岡県三島市)や当会事務局へ足を運び、持ち帰った資料をもとに関係者と打ち合わせを重ね、内容を練り上げました。ちなみに、「すて目すて耳」とは、「今は必要なさそうな、捨てるようなことでも、いずれ役に立つかもしれないから、見聞きしておくように」という三遊亭若圓歌^{さんゆうていわえん か}師匠からの教えとか。その演目のとおり、落語界の話あり、米山梅吉氏の人生あり、米山奨学事業の豆知識ありと、多岐にわたる話題を織りまぜながら、笑いの中にもためになる、大変楽しい卓話に仕上がっていました。

今回の企画の仕掛け人、第 2750 地区米山増進委員会の村口 正 委員^{むらぐちただし}(東京五反田RC)によると、「寄付を集めるには、まず理解が必要」ということで「会員の皆さんに楽しみながら聞いてもらう」ことを目的に、若圓歌さんに協力をお願いしたそうです。同委員会では、希望するクラブへの出張卓話も計画しているとのこと。皆さんのクラブでも一席いかがですか？



5. トルコがなぜ親日的かご存じですか？ 奨学生の卓話から

コッチ・ムスタファ君 (トルコ/鈴鹿国際大学3年/鈴鹿ベイRC)



トルコに親日家が多い理由はいくつかありますが、その中でトルコと日本とを結びつけた、ある歴史的な出来事をご紹介します。

1890年(明治23年)明治天皇への使節団として訪れていたトルコ軍艦、エルトゥールル号が、帰途、和歌山県沖で嵐に遭い沈没しました。587人が死亡する大惨事でした。岸に流れ着いた血だらけの乗組員たちを、大島村(現在の串本町)の村人は総出で救助し、69人が助けられました。大島村は貧しく、毎日の食事さえやっとだったにもかかわらず、非常用の鶏さえもつぶし、傷ついたトルコ人にふるまい、懸命に介護したのです。この話は日本中に伝えられ、全国から義援金が寄せられたそうです。生存者たちは日本の軍艦で母国へ送り届けられました。

私たちトルコ人は受けた恩を忘れることはありません。1985年、イラン・イラク戦争で、イラクのフセイン大統領が「イラン上空を飛ぶすべての飛行機を打ち落とす」という声明を出し、首都テヘランに残っていた300人ほどの日本人が、脱出のために空港へ向かいました。しかし、各国の航空会社は自国民を優先したため日本人は搭乗便を確保できず、約200人が取り残されました。脱出までのリミットが迫るなか、トルコ政府が日本人救出のための特別機を派遣することを申し出ました。危険な戦場への飛行にも関わらず、多くの乗務員が名乗り出たそうです。彼らは日本人から受けた恩を返すために、日本人を優先してイラン脱出の手助けをしました。イラクからの攻撃までわずか数時間の出来事でした。

私は、母国とこのようなつながりを持った国で勉強できることを嬉しく思っています。トルコを外から見て、改めて見えてきた部分も多々あります。これからさらにいろいろな角度から物の見方、考え方を学び、将来は母国で外交官になり、トルコ周辺の国々はもちろん、世界から戦争をなくす方法を探したいと思います。

(財)ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15
黒龍芝公園ビル 3F

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>
編集担当：野津・峯・大庭